

『カクキューの八丁味噌を愛した著名人』
～ 三原好太郎（みはら こうたろう） ～

生年月日不詳（明治～昭和）

愛知県安城市出身

合資会社八丁味噌カクキューの本社屋設計、監督者

1921 年（大正 10 年）に「支那語獨修：新編」を出版

本社事務所（本社屋）の経歴

1990 年（平成 2 年）岡崎市都市景観環境賞

1996 年（平成 8 年）愛知県初となる国の登録有形文化財

2009 年（平成 21 年）近代化産業遺産に認定

2014 年（平成 26 年）岡崎市景観重要建造物に指定

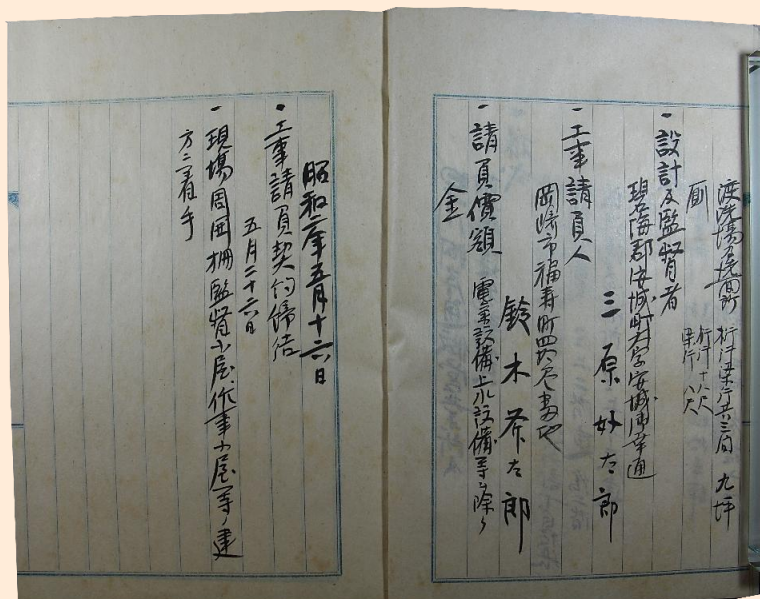
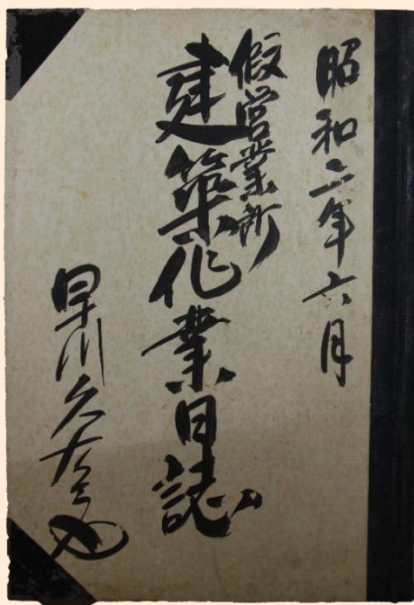
1927 年（昭和 2 年）11 月 23 日、新しい「本社事務所（本社屋）」での業務がスタートしました。人目をひく斬新なデザインでバシリカ式教会堂のような木造の 2 つの棟に白い柱型と黒い壁面で構成された外観となっています。建物内は広くて天井が高くなっています。1923 年（大正 12 年）の関東大震災が念頭にあったため、中心となる柱の土台は石でしっかり固められた丈夫な作りとなっていて、瓦は使用していません。

南側一階建部分が事務の中心部で、北側二階建部分一階は応接室などがあります。二階部分は和室や広い洋間があり、かつて社交場としても活用され、スウェーデン教会の日曜学校にも使用されていました。玄関を入ったところにあるカウンターには天秤などで味噌の量り売りをしていた頃の名残が今もあります。

1889 年（明治 22 年）旧岡崎藩主本多忠敬は東京都本郷森川町の藩邸に岡崎から東京に出て学問をする者の為に寄宿舍「龍城館」を造りました。志賀重昂（地理学者）が監督指導を務め、舎生に三原好太郎、本多敏樹（岡崎第二代市長）、橋本増治郎（ダットサン製造）らがいました。

当社史料室には昭和時代に三原好太郎に味噌をお送りした記録が残っています。

本多忠敬、志賀重昂、橋本増治郎について詳しくは当社 web サイト「八丁味噌を愛した著名人」の該当項目をご覧ください。



中央で白エプロンの少女を抱いているのが 17 代早川久右エ門。最後列中央の山高帽を被った洋装の男性が三原好太郎。1927 年（昭和 2 年）撮影。

吉川久右工門商店
岡崎八丁味噌本家

岡崎八丁味噌本家
早川久右工門商店
電話九番

宅 扱 送 状

No. 昭和 11 年 12 月 5 日 2212

品名荷造	個 数	實 数	荷 受 人	着 驛	運賃支拂方	運 賃	引換代金	摘 要
八丁味噌 箱入	1	1500箱入		沙留驛	元 拂	258		
八丁味噌 箱入	5箱	1500箱入		岸田驛	元 拂	48		
八丁味噌 箱入	1	1500箱入		大船驛	元 拂	52		
八丁味噌 箱入	1	1500箱入	東市浦田 二原好太郎殿	蒲田驛	元 拂	56		
八丁味噌 箱入	1	1500箱入		葛崎驛	元 拂		565	
八丁味噌 箱入	1	3000箱入		沙留驛	元 拂		770	

三河鐵道運送部 電話七二七番 八五一番

(宅扱送状) 昭和 11 年 12 月 5 日付